

# 令和2年度 荒尾市保健・福祉・子育て支援施設（仮称）基本構想策定業務 第3回基本構想策定委員会 議事録要旨

## ■開催概要

日時：令和3年 1月18日（月）15：00～17：00

場所：荒尾市役所2階 市長公室

出席者：委員13名、事務局11名

	所属・役職	氏名（敬称略）
委員	熊本大学 熊本創生推進機構大学院担当准教授	田中 尚人
	荒尾市医師会 副会長	伊藤 隆康
	荒尾市健康づくり推進員協議会 会計	黒岩 由美子
	荒尾市食生活改善推進員協議会 書記	大塚 恵子
	荒尾市社会福祉協議会 事務局長	小川 公子
	荒尾市民生委員児童委員協議会連合会 会長	甲斐田 忠
	荒尾市老人クラブ連合会 副会長	和田 トミ子
	荒尾市身体障害者福祉協会連合会 会長	斎 浩史
	荒尾市保育協議会 会長	伊藤 美佳子
	熊本県私立幼稚園連合会荒玉支部荒尾地区 理事長	開田 郁子
	荒尾市保育園保護者会連合会 会長	石崎 剛
	荒尾市PTA連合会 会計	坪根 ゆり
荒尾市地区協議会会長会 会長	河部 啓宣	
事務局	荒尾市 保健福祉部	片山部長、塚本参与
	荒尾市 福祉課	宮本課長
	荒尾市 子育て支援課	原口課長
	荒尾市 保険介護課	永野係長
	荒尾市 すこやか未来課	田代課長、柴田課長補佐、小宮係長、前広副主任
	パシフィックコンサルタンツ株式会社	山口、江本（オンライン参加）

## ■次第

1 開会

2 議題

① 整備手法・運営手法について

② 基本構想（素案）について

③ その他

3 その他

## ■議事概要

- ・ 整備手法・運営手法及び基本構想（素案）について事務局より説明を行った。

### ●議題①整備手法・運営手法について

（委員長）

- ・ 現段階では決められないということで、意見は特にないかと思う。議題②に進みたい。

### ●議題②構想（素案）について

（委員長）

- ・ コンセプトで打ち出したかかりつけ保健師などのキャッチフレーズや殺し文句などが方向性で特出しされていない。
- ・ P14 図の前にかかりつけ保健師の説明や言葉が必要
- ・ P15 にワンストップ化を説明や言葉が必要。
- ・ P16 に「行きたくなる場所」「多世代でいく場所」などの言葉が必要。

（A 委員）

- ・ 民間をうまく活用してほしい。

（委員長）

- ・ 荒尾市の地場産業を根付かせたい。スポーツメーカー等が 3 密を避けた手法で参入しているようだが、大事なのは地元の企業が出てくれるようにすること。医療機関もそう。

（B 委員）

- ・ 長崎の伊王島のように、自転車を使って荒尾のいろんな施設を健康的に回ったり、夕陽の見えるスポット、グランピング、ペットと一緒に利用できるなど、市民が楽しめる施設となってほしい。
- ・ 温泉ができるということだが、市外の人がきて利益を生むのか、市民が利用して健康になるのかどっちなのかと思った。荒尾市民が使うだけじゃもったいない。

（委員長）

- ・ 南新地だけではなく荒尾市全体を利用してもらう必要がある。移動としてはどうか？

（事務局）

- ・ 市全体としては緑ヶ丘と駅前地区が 2 つの拠点として均衡のとれた開発を目指している。
- ・ 交通の問題としては、公共交通としておもやいタクシーなど進めているので、高齢者も移動しやすいよう考えている。
- ・ 南新地では自動運転等もあるが、歩いて楽しめる場所となりウェルネスにつながるよう考えている。

（委員長）

- ・ 駅前地区との 2 拠点は背景の中で、再開発する理由づけになるため、構想でどうするか軽く触れるとよい。

- ・ 「ちゃんとお金は稼ぎつつ、市民の福祉のために両方必要」ということなど、交流をメインということを書いていたほうが良い。

#### (C 委員)

- ・ 保護者会の意見をまとめてきた。
- ・ 海に直接出れるような形ができればよい
- ・ マジャク釣りなど獲ったものを調理して食べられるとよい。
- ・ 海外の子供たちとコンタクトをとれるような施設があるとよい。
- ・ 英語などグローバル化していくなかで、ゲームじゃなく国際交流ができるようなサポートをしていけたらよい。

#### (委員長)

- ・ この場所の位置づけの意見であり、SDGs の話。基本計画を立てるときに、背景のところを含めてもらえたらよい。
- ・ 来年の基本計画でもこの意見を言っていたらよい。

#### (D 委員)

- ・ 子どもと親と一緒に広い土地を活かして作物などを栽培して食べて、食の大事さを学ぶなど具体的に基本計画で書いてほしい。
- ・ また、親子で梨など特産物使った商品化など、親子でできる子育て支援について基本計画で書いてほしい。

#### (委員長)

- ・ 共通機能の共食のスペース、マジャクを釣って食べるようなアクティビティを行える場所が必要。18 ページに書き加えられるのではないか。
- ・ 機能を単的に使うのではなく複合的に使うなど、「利用者側も一緒に使うように心がけましょう」ということは書けると思う。ここを充実させることで対応したい。

#### (E 委員)

- ・ 総合相談窓口はいいと思うが、集約するならば荒尾市役所が移転すればいいと思う。
- ・ 温泉施設について、建てたものを維持できるのか？ 弥生の湯やアジアパークのように採算が合わずに潰れていくのではないかと心配。お金をかけて作る意味があるのか。
- ・ 建てたばかりはいいが、継続して 10 年 20 年後どうなるのか心配。
- ・ 体育館、野外音楽堂などもぼろぼろなので、そこにもお金をかけて欲しい。
- ・ 歩くのを楽しむなら、南新地でなくてもよい。
- ・ バスの便がどのくらい利用しやすくなるのか心配。
- ・ 託児機能について、ファミサポなど手伝ってくれる人を集めるのは大変。理想と現実のギャップがあるので、考えていかなければいけない。
- ・ 保育所や一時保育施設などを公共施設として建て方が、沢山の人が利用しやすいと思う。そこに療育を診断できるお医者さんがいたりし、そのついでに周辺施設で遊びや運動ができればよいと思う。

- ・ 荒尾全体が不備なところを整備して集約した方がいいのではないかと思います。
- ・ 絵にかいたモチにならないような計画にしてほしい。

(事務局)

- ・ 温浴施設は民間誘致であり、本施設に温泉施設を作るということではない。
- ・ 民間と連携して健康プログラムを作っていきたい。

(委員長)

- ・ E委員の話をやろうと思うと市役所全体、市民全体でやらないとできないこと。10年20年かけて考えてやっていかなければいけないこと。再開発1つでは到底できないこと。
- ・ この施設の委員会の話としてはよく練れている案。
- ・ 前回の公園が使われていないことの議論も一施設の議論で行われたことはすごいこと。このような議論もして考えた施設ということを知らしめていかないといけない。
- ・ 議論したことをつまびらかにして、知らしめていくことが大事。
- ・ 市役所を移転しない理由や均衡、発展する理由などについては、背景に書いていけば良いと思う。

(F委員)

- ・ 車いすの人も安心して移動できたり、参加できるような整備を考えてほしい。
- ・ 車いすの駐車場について、市民の意欲が低く、車いすの人が乗り降りするスペースに平気で駐車する人がいる。
- ・ 車いすの人が出れなくなり、駐車した人が出るまで待たなければならないケースがある。
- ・ バスについて、荒尾にノンステップバスが一台も走っていないことを聞いてびっくりした。
- ・ 自動運転の車が走るようになったら、車いすの人が乗れるのか心配。
- ・ 身体障がい者が不自由している面もあり、ガルウィング形式で車いすを収納する福祉車両なども出てきているため、皆さんに知ってもらい、整備の際には実際に障がい者の方に参加して（意見をきいて）もらいたい。
- ・ 車いすの人も夕陽などを楽しみながら散策できるようになるといい。
- ・ ストレスある人もあるので、社会参加できたらよい

(委員長)

- ・ まさにSDGsの話。ノーマライゼーションの話。18ページの中に、F委員の話を分厚く書けたらよい。
- ・ 実際の整備の際には、障がいのある人などに話を聞くこと。

(G委員)

- ・ マジックを釣って食べられるとよいという話があったが、処理の仕方、調理の仕方など、私たち経験者が教えられたら良いと思う。

(委員長) 色んな人と交流できるようになればよいと思う。

(H委員)

- ・ 生活利便施設のスペースが大きく、この施設は小さい。生活利便施設とは何が入るのか？
- ・ 関係団体がこの施設の中に入れるのかどうか気になる。広い会議室が取れるのかどうか。

- ・ 運動施設がフィットネスだけでよいのか心配。子どもがメインと考えると、子どもがフィットネスを利用するのか疑問。
- ・ アンケートについて、アクティブに関わる人が対象になっている。サイレントマジョリティなどあまり意見を述べてない人の意見も拾うことが良いと思う。

(事務局)

- ・ 生活利便施設は、商業施設や病院など、民間がこの土地を買って利用するというを想定している。

(委員長)

- ・ 資料4は現状では絵空事。市民と一緒に話し合っ、みんながのっていける夢じゃないといけない。市民と一緒に話してあう気概がないといけない。
- ・ 来年1年でそういう話が出来るのではないかと思うので、絵空事にならないようお願い。
- ・ フィットネスは、これまでと違い、家族同士、利用者同士が交流するものなど、荒尾市ならではの利用を検討するとよい。
- ・ 10ページはマイナリティの意見を拾うようにするには今後どのようにしていくか？

(事務局)

- ・ ワークショップも一つの手だが、隠れた声はそういうところにも来ない可能性がある。
- ・ アンケートなどが考えられるが、どのように意見を拾うか検討したい。

(委員長)

- ・ 公共施設を作る時にしかできない。ぜひそういう調査を。

(I 委員)

- ・ P19 機能イメージに温泉が入ると、この施設で温泉ができるのかと勘違いするため、誤解を生じない整理を。
- ・ 導入する機能についてよくできている。
- ・ かかりつけ保健師などキャッチフレーズは全面に出すとよりコンセプトがはっきりすると思う。

(委員長)

- ・ 基本構想でここまで考えられるのは珍しい。
- ・ 詳しいことから読み違いされる可能性があり、そうなる困るため、庁内の手持ちにするのかパブリックコメント資料にするのか整理や書きぶりは検討してほしい。
- ・ 良い資料にはなっているのは間違いない。

(J 委員)

- ・ 災害時には、炊き出しなどで保健センターを拠点に食生活改善推進員協議会が携わっている。
- ・ 素案の中には、防災についてのことが書かれていない。
- ・ 熊本地震など踏まえ、(食生活改善の)協会が求めていることもあり、私の視点では足りないと感じた。
- ・ 希望としては、施設に災害時にも活用できる充実した調理室をお願い。
- ・ 炊き出しの調理器具などの保管の場所の確保をお願い。
- ・ 災害時の拠点となるような場所にしてほしい。

- ・ 高齢者に対しての内容がさみしい気がする。
- ・ 医療費が高い高齢化率が一番高いなど 6 ページにはびっくりした。子育ても大切だが、高齢者に対する取り組みも必要。
- ・ 元気な方が利用するフィットネスも大切だが、椅子に座って簡単にできる運動するなど、この場所を荒尾市全体の人（子どもから高齢者の人）もこの施設があってよかったと思えるような場所にしたほしい。

(委員長)

- ・ 本当は防災版の冊子も必要だが、そういうことはできないため、一番初めに書くしかない。
- ・ 熊本地震やコロナなど含め背景に書きつつ、災害時は防災拠点として機能することなどについて、前提として書いたほうが良い。
- ・ 高齢者の運動については、E 委員の意見と同様、この施設だけでやっていくのではなく、市全体で行っていくもの。
- ・ 敷地が広いといっても限度があるため、子育て世代中心なのか高齢者中心なのか、何を中心にやっていくのかを示す必要がある。
- ・ 誰もが使いやすいことは当然だが、基本構想でどこまで書くのかは考える必要があるが、いかがか？

(事務局)

- ・ 防災については記載がないため、記載したい。先の水害やコロナなど、保健センターが中心になるため、何らかの記載が必要。
- ・ 道の駅が防災機能を一定以上持つということのため、道の駅と調整していきたい。
- ・ 高齢者の健康については、P14 に全世代の健康づくりとして記載している。
- ・ この施設だけではなく、市内全域の活動と連携してやっていきたい。
- ・ 若い人の運動ができていない点もあり、健康寿命延伸のために早い年代からやっていきたいという趣旨もある。

(委員長)

- ・ 施設を造る造らないに関わらず J 委員の意見は反映させていかないといけない。
- ・ 本施設から市全体への波及は必要だが、ここまではやっていきたいと示した方がよい。やりたいということを描いたほうがよい。守備範囲を示すことが大事。
- ・ P18 で行政がやれることは限られるので、助け合いでやれるようにしていこうということの描きぶりを厚くしてほしい。

(K 委員)

- ・ 高齢者への取り組みがさみしい。
- ・ 健康寿命を延ばすために 29ヶ所で体力アップ体操などを行っているため、そういうことについても触れてほしい。
- ・ インターチェンジがあるので、ちゃんとしたスポーツ施設があっってお金が落ちるようにした方がいいと思った。
- ・ 元気な高齢者が子育て世代のお手伝いできるような場所になるとよい。

(委員長)

- ・ インターチェンジができるため、荒尾市内や市外者の人を寄せるなど大きな視点で考える必要がある。
- ・ 市内交通など周遊バス荒尾市の活性化、市外者がキャンプできる場所、サッカーなど県大会が行える場所、荒尾だったらこういうことができるなど売りや狙いを書いても良い(全国マジック釣り大会大会など)。
- ・ インターチェンジは、「気軽に行けるもの」、「高頻度のアクティビティ」、「ボルダリング(昔で言えばアイススケート)」など、施設利用、季節利用、ニッチなところを狙うのも良い。

(L委員)

- ・ 6ページの資料は乱暴であり、誤解をまねく。オーバーに表現している。
- ・ 医療や福祉が充実しているため医療費が高くなっているとも言える。医療や福祉が充実させている結果を見せないといけない。
- ・ 荒尾も福祉も充実させるからいい街だからきてくださいということについて、マイナスになる。
- ・ これだけでは医療費が高い街だと思い、移住定住しなくなる
- ・ P18の図は、3つの機能がメインであるということが解るように。市役所など周りの図や文字が大きい。ワンストップなどキーワードも入れること。
- ・ P27、P30も同様。文字は見ない。絵をわかりやすくする。

(委員長)

- ・ 大きく見やすく、なにが大切か大きさをヒエラルキー(階層)を表現する。
- ・ 良いところと悪いところも出していかないといけない。公平に3つずつ出すなど。

(I委員)

- ・ 現状について、介護給付費が年々増加しているところなど正確ではないと思うので、本当にそうなのか確認してほしい。

(L委員)

- ・ 医療費が高いということなどこの部分が必要なのかどうかということもある。何のためにこの情報を出しているのか。意味があるのか。
- ・ 同規模のまちと比べると決して高くない。正しくないデータも載っている。

(委員長)

- ・ 項目は良いため、良いことも悪いことも含め、現状を知ってもらうための(現状の)書きぶりなどをお願いしたい。

(B委員)

- ・ 宿泊施設とはどういう施設か?本施設は土日も開いている施設か?

(事務局)

- ・ 宿泊施設は、民間施設誘致。ホテルを想定している。
- ・ 基本計画の内容になるが、土日も開けることや中央公民館のように夕方以降も長く開けることを想定している。

(B 委員)

- ・ 荒尾にホテルはある。市民が望むものと、市外者が来るものが混在している。
- ・ 市民が望んでホテルを配置したのか疑問。
- ・ アウトドア施設も、ヴェルデの隣にあるのに誰も使っていない。
- ・ 外部の人が使ってお金をおとしてもらいたいのであれば弱いと思う。
- ・ 財源的に大丈夫なのか心配。

(A 委員)

- ・ 保健・福祉・子育てに関することがこの施設に入ることであって、他の周辺施設のことについては経済効果なども含めて市全体のまちづくりとして進められている。この施設の話は、そのまちづくりの部分的な話。
- ・ 温泉も市が掘るのではなくて、民間がすること。
- ・ 私たちができるのは、その話の中で荒尾駅をどうにかしてほしいなど、点と点と線で結ぶようにしていくこと。

(I 委員)

- ・ 先進コアの機能を、この施設で全部やるように勘違いしてしまう。
- ・ 周辺施設と有機的に機能させるという描きぶりにする必要がある。
- ・ 本施設が行うことは、保健・福祉・子育てのみ。

(事務局)

- ・ 今回わかりやすいように資料4のイメージを出しているところ。
- ・ エリア全体は区画整理で行っており、民間誘致についてはウェルネス拠点の基本構想の観点から行われていること。
- ・ 本施設との関係が分かりづらいため、背景などに分かりやすいように記載したい。

(委員長)

- ・ 周辺施設は何が来るのか未定であるところ。決まっているのはこの施設と道の駅。
- ・ パブリックコメントで知らしめて、この施設と道の駅と2つで南新地を引っ張っていく。

(委員長)

- ・ 見出し1、2はかき直して見直させてほしい。委員長預かりでよいか

(委員)

- ・ 異議なし。

以 上